

てのひらのさかな

中村賢司

登場人物

- ・あや先生（りすぐみ担任）
- ・ふみえ先生（りすぐみ副担任）
- ・中井（送迎バス運転手）
- ・きょうこ先生（もみじ幼稚園の園長）
- ・斉藤（来訪者）

私立もみじ幼稚園の教室の一室である。

壁の掲示板には手作りの壁面飾りが飾られてある。床には積み木、人形、大型ブロックなどが散らばっている。本立で、幼児用のいす、背の低いテーブルがある。壁にパイプいすが立てかけてある。かわいい動物の描かれた窓がある。窓越しに通路が見える。通路には雨よけの屋根があり、その通路は園庭に隣接している。すなわち幼児は教室から通路を横切り、直接園庭に出ることができるわけである。通路の下手は職員室、玄関、上手はお遊戯室、図書室、倉庫に続いている。

1

月曜日の午前11時。園庭には静けさが漂っている。

もみじ幼稚園の9月の行事である「もみじ祭り」が、昨日、無事に終わったところであり、本日は休園日である。

背広姿の大男が背中を向け、所在無く立ちつくしている。手には白い手袋。頭には不似合いなかわいいいくまの帽子。

この園の送迎バスの運転手である中井である。

おそろいのかわいいイラストがプリントされたTシャツ、色違いのジャージの女が二人、テーブルで壁面飾りのどんぐりを作っている。ピンクのズボンはやや先生、ブルーはふみえ先生、二人ともこの幼稚園の教師である。

あや 責任のよりどころのことを問題にしている、あなたは、言わば。

ふみえ いえいえ。

あや じゃあ何？

ふみえ 私の立場からじゃ言えません。

あや ほら、立場。その立場っていう言葉がすでに話し合いのフィールドから降りてる事を証明してるわけ。あなたは私と立ってる場所が違うってことを言いたいんだよ。

ふみえ いえいえ。

あや もみじ祭りは成功したじゃない。

ふみえ はあ？

あや 成功とは言えないまでも、失敗しなかったじゃない。いや、カタチになつてたじゃない。違うの？

ふみえ もみじ祭りの話をしてたんですか。

あや 何？どじょうの役が多すぎたわけ？仕方ないのよ。リトミックを混ぜなきゃならないの。生活発表会なんだから。なんのために毎朝、無理やりやってたと思うのよ。いつもやってることを見せること、日常生活を見せることが、もみじ祭りの生活発表会の主旨なんだから。

ふみえ 中井さん、見ました？

中井 え？

ふみえ もみじ祭り。りすぐみの出し物「どんぐりころころ」のリトミック。

中井 ……中に入れませんでしたから。

あや 何してたんですか？

中井 ……園庭の掃除……花壇の水遣り。

ふみえ 見てなかったんですか。

中井 ええ、いや、一応、少しは。(話をそらして)お遊戯室、すごい人でしたね。

あや 人が多かったってことですか？

ふみえ 拍手は少ないですよ。

中井 え？

ふみえ 人が多くても静かなもんです。気持ち悪いくらい。みんな構えてますから。ビデオ構えて。デジカメ構えて。拍手の代わりにカメラのフラッシュ。出し物が終わった瞬間、ビデオ構えてない人だけがぱらぱらと拍手。ホントにどうしようかと思っちゃいますよ。子供たちを感動させたいんですよ。こちらとしては充実させたいんですよ、一応。

中井 昨今の親御さんたちは記憶に残すのではなく記録に残すことにご執心なのですね。

あや ほらやっぱり。

中井 え？

ふみえ やっぱりって何ですか。

あや 胸の中の不満の塊がこういう時にぼろっと顔をのぞかせるの。「こんにちは」って。

中井 えっ私は別に。

ふみえ えー今のぞきました？いつですか？どんな不満が見えました？

あや たまった不満が爆発する時って一色じゃないのよ。いろんな要素が何色も重なりあって爆発するの。きっかけはその日の体調とかその日の天気だとかでじゅうぶんなの。

ふみえ 何ですかそれ。

中井 あー。

あや 何ですか？

中井 あー……どんぐりの群れでしたね。

ふみえ 群れ？

中井 どんぐりの群れ。子供たちは……群れてましたなあ。

ふみえ 役が二つしかありませんから。

中井 今、頭の中でよみがえってきました……どんぐりの群れとどじょうの群れ。

あや (強く) 生活発表会なんだから日々の生活を取り入れなきゃいけないのよ。

ふみえ、あやの前に立つ。

ふみえ あや先生。「こんにちは」って何ですか？

あや 何？

ふみえ 誰が言ったんですかそんなこと。

あや 誰って何？

ふみえ さっき言ったじゃないですか。「こんにちは」って顔をのぞかせたって。それ誰ですか？

中井 どじょうじゃないですかね。私のつたない記憶によると、それはまさしくどじょうですね。

ふみえ 違います。

中井 あれ「こんにちは」ってあいさつするのはどんぐりでした？
ふみえ どじょうです。

中井 (歌う) どんぐりころころどんぐりこ、おいけにはまってさ
あたいへん……

あや (さえぎって) 「こんにちは」と、出てきてあいさつするのはどじょうです。

中井 そうですよね。

ふみえ 中井さん、話ややこしくしてません。

中井 え？

ふみえ わざとですか。

と、その時、あわてた様子でこの幼稚園の園長であるきょうこが窓から顔を出す。手にノートを持っている。

きょうこ あや先生、図書室の鍵って開いています？

あや 図書室ですか？

きょうこ 問い合わせがあつて。園のこといろいろ聞きたいって。

ふみえ 誰ですか？

きょうこ オオクマさん。

あや オオクマさん？

ふみえ (あやに) 保護者ですかね。

あや そんな苗字の人、いないでしょ。

きょうこ 素性を聞くのを忘れました。名前しか聞いてない。

ふみえ はあ。

きょうこ あの図書室って絶対虫いますよね。茶色い本には必ず虫が住んでいます。痒くなりませんか？

ふみえ なりますなります。

きょうこ バルサンたきませんか？

ふみえ バルサン？

あや それはちよつと。

きょうこ バルサン駄目かしら。効き目あるんだけど。

ふみえ 子供の絵本もありますから。

きょうこ ああそうだ。

きょうこ、教室に入ってくる。あらたまつて深々と礼をする。

きょうこ 皆様、昨日はどうもお疲れ様でした。

あや お疲れ様でした。

ふみえ お疲れ様でした。

きょうこ 子供たちのはちきれんばかりのまぶしい笑顔。元気なお

声。観ている方が元気になります。もみじ祭りは大成功でした。

(と、拍手をする)

あや・ふみえ はあ。

きょうこ これで来年度の入園希望者が増えてくれるといいんです
けど。もしそうなれば図書室を改築できます。

中井 はい。

きょうこ プールも改修できます。プールの底にお魚をたくさん描
きましよう。

中井 素敵です。

きょうこ あや先生。

あや 何ですか？

きょうこ もみじ幼稚園の売りって何だっけ？

あや 売り？

きょうこ 聞かれたの。その…オオクマさんに。

中井 やはり園庭のもみじでしょう。もみじ、いちよう、ぎんなん
…

きょうこ (あやに) 幼稚園案内のパンフレットの始めの方に載っ
てたよね。

ふみえ 案内のパンフ？そんなのあるんですか？

きょうこ 何だったかしら？リネン？教育モクヒョー？

あや フレーベル。

きょうこ あっそうそう、それぞれ。

きょうこ、テーブルにつく。

きょうこ フレーベルって何人かしら？

あや ドイツ人です。

と、ノートにメモる。

きょうこ これでも経営者ですから窓口で瞬時に問い合わせに答えなければなりません。

と、立ち上がり、行こうとする。

きょうこ あっ鍵。

ふみえ 開いてます。さっき使いましたから。

きょうこ そう、ありがとうございます。

きょうこ、教室を出る。

中井、通路へ出てきょうこを呼び止める。

中井 きょうこ先生。

きょうこ 何かしら。

中井 先日言っておりました畑の件なんですけど。

きょうこ 畑？

中井 はい。

きょうこ あーいいですよ。南端の花壇、あれ全部つぶしちゃってください。

中井 あっありがとうございます。

きょうこ (あやとふみえに) パーティーしましょう。

中井 え？

きょうこ いんげんまめパーティー、子供たちの喜ぶ顔が目に見えます。

あや・ふみえ ……

きょうこ、去る。

中井 素敵です。

中井、教室に戻ってくる。

ふみえ 花壇つぶすんですか。

中井 少しだけです。端のほうを少しだけです。

ふみえ チューリップ植える場所は置いといてくださいよ。

中井 もちろんです。

あや 保護者からクレームがついたんですよ。

中井 畑がですか？

あや 去年のもみじ祭り、劇遊びだったんです。出番を平等にして欲しいって。他の子は長いセリフがあるのにうちの子は「午前3時でーす」だけだって。

中井 それ何の役だったんですか？

あや 時計の役。ブレームンの音楽隊のどろぼうたちが住む家の置

時計。

中井 脇役中の脇役ですね。

ふみえ 中井さん、今日、本当は代休でおやすみでしょ。

中井 ええ、でもすることありますから。

ふみえ すること？

中井 ……家にいてもすることありませんから。

ふみえ 中井さん、子供さん何人でした？

中井 3人です。

ふみえ えっと。

中井 上が娘で下が息子でその下が娘です。

ふみえ いくつですか？

中井 5、3、1です。

ふみえ ふーん大変ですね。

中井 大変です。

ふみえ 七五三が大変ですね。

中井 大変です。

あや 休日手当て出すってきょうこ先生言っていましたよ。

中井 ありがとうございます。

あや 当たり前ですけどね。

中井 あや先生もふみえ先生も出るんですよ。

あや ふみえちゃんは出ます。私は代休の代休を取らせてもらいます。

中井 私立の幼稚園はややこしいですね。

ふみえ もう次の行事の取り組みが始まりますから。

中井 次ですか？

あや 運動会3週間後ですから。終わったら早めに片付けといたほうがいいんです。

中井 あーもうそうなりますね。1年たつのは早いですね。

あや 行事を通して子供たちの成長を育む、もみじ幼稚園の売りのひとつですから。

中井 休日返上で園長も張り切ってますしね。

ふみえ きょうこ先生？

中井 はい。

ふみえ 1年目だからなんでも新鮮に映るんですよ。

中井 そうですかね。性格じゃないですかね。

ふみえ それもあるけど。

中井 いいですねえ。前向きな性格。くー羨ましい。

ふみえ その前向きさが心配といえれば心配。

中井、園庭を見つめる。

中井 ここに勤めだしてからです。

ふみえ 何ですか？

中井 1年間、いろいろ行事があるじゃないですか、七夕祭り、プール、お月見会、クリスマス会、もちつき大会、節分、日本にそんなにたくさん行事があるなんて知りませんでした。

ふみえ 日本というかこの幼稚園ね。

中井 行事があるから季節に気づくっていうかね、春が来た、夏か、
あーもう秋なんだな、冬か、とかね、6月10日が時の記
念日だつてことをこの歳になるまで知りませんでしたよ。

ふみえ 牛乳のふたで腕時計作りましたね。

中井 季節が私なりに感じられるようになったのはここに来てから
です。今まで花を立ち止まって見たことなんかなかったんですか
ら。

ふみえ だから畑作り？

中井 はい。

ふみえ いんげんまめ？

中井 はい。

ふみえ きつと暇だからですよ。

中井 え？

ふみえ 余裕持たないと季節なんて見えませんよ。

と、その時、マスクをしたきょうこが本をかかえて通りが
かる。

きょうこ (窓から顔を出して) 虫パニックよ。いましました。
本ののりのところに白い虫。細い虫。細長い虫。虫パニックよ。

そのまま、足早に下手へ去っていく。

ふみえ、立ち上がる。

ふみえ あや先生が気を病むことはないですよ。

あや 何？

ふみえ 中井さんを休日出勤させたのは園長のきょうこ先生の責任
です。ただの連絡ミスです。あや先生の責任じゃありません。

あや 何いきなり？

ふみえ (中井に) すいません、本当に。

中井 いえいえ。

ふみえ でも、中井さんも、結局することあったんですよね。

中井 ええ、いろいろこまごま。土にまみれます。

ふみえ (あやに)ダンボールのどんぐりの木、壊しちゃっていいですか？

あや え？

ふみえ 出し物の。お遊戯室にまだ置いてますよね。

あや ああ、まだだっけ。

ふみえ はい。

あや ダンボールまとめといて。古紙回収の日に出さないといけな
いから。

ふみえ ビニールのひもありました？

あや 職員室かな。

ふみえ ああ、そうでしたそうでした。

ふみえ、行こうとする。

あや ふみえちゃん。

ふみえ はい。

ふみえ、立ち止まる。

あや いろんな立場があると思うの。

ふみえ 私、あや先生を責めてませんよ。

あや うん。

ふみえ 中井さんが今日出てきたのは園長のミスだし。

あや うん。

ふみえ 少し言い過ぎましたけど。

あや きょうこ先生の立場、担任である私の立場、副担のふみえ先生
の立場、それぞれの立場が違うっていうあなたの主張は理解で

きるの。

ふみえ はあ。

あや 実際違うわけだから。きょうこ先生はわかってないじゃない。もみじ祭りを評価してるんだから。でもそれ込みでしょ。見えなわけだから。いいのよ。新人園長なんだから。それ込みの園長でしょ。その立場でいいわけでしょ。

ふみえ いいんですかね。

あや それ込みなの。ゴマメなの。わかる？ゴマメ。ゴマメって言わない？昔言わなかった？

ふみえ 何ですかそれ。

あや 鬼ごっこの時、ゴマメだけ2回タッチされないとかまらな
いとか、かくれんぼの鬼でみんなが隠れる時、目を開けたままで
いいとか。

ふみえ そんなのありですか。

あや (立ち上がり) あなたはゴマメじゃない。

ふみえ は？

あや ひとつの事に対してみんな自由にいろんなこと思うわけでしょ。それぞれが思ったことは間違いじゃない、それぞれがそう思った。それは事実。ばらばらな意見でもその人の真実なんだから。でもそのままでもいいの？正解を指さなきゃ。正解を指さないと、わからなくなるじゃない。いろんな事がわからないままになるでしょ。

ふみえ ああもう全然わかりません。

あや ようするに、お互いに言いたいことを言い合いましょうって

ことを私は言いたい。

ふみえ 遠まわしですね。

あや 今回のりすぐみの出し物はどう思うの？

ふみえ らいおんぐみには勝ってたと思います。

あや そりゃ勝ってたわよ。

ふみえ らいおんぐみはわかりにくかったです。擬態語をリトミッ

クで表現。子供たちは何やってんのかわからず、舞台上をうろろ。

あや 私もそう思う。

ふみえ あや先生は考えすぎなんです。

あや 考えなきや。

ふみえ セリフは平等。4歳クラスは5歳クラスより高度なことはしてはいけない。子供の成長を促すような課題に取り組まなければならぬ。見栄えがよくないといけない。

あや それは考えないと。

ふみえ らいおんぐみのこのみ先生、今、旅行中です。年休とって韓国。今、安いらしいですから。

あや そう。

ふみえ 気楽です。でも子供が寄ってきます、あの先生。

あや そうね。

ふみえ このみ先生の性格です。あや先生は考えてるってことが顔に出るんです。

あや え？

ふみえ いらいらしてることをアピールしてる。いらいらが顔に出る。子供は敏感なんです。

あや どういうこと？

ふみえ もうひとつ言わせてください。

あや 何？

ふみえ やっぱり私は立場をわきまえます。

あや うん。

ふみえ アルバイトですから。時給ですから。

あや うん。

ふみえ 困るんですよ、求めてこられても。

あや え？

ふみえ さらされるのはあや先生です。

あや うん。

ふみえ そのことは悔しくもあるんですけど。

ふみえ、去る。やや間。

あや、雑然とした教室を片付け始める。中井も手袋をはずし、手伝う。

あや そんなにドラマがあるわけじゃないですよ。

中井 はい。

あや 大きく分けて3つなんです。

中井 3つ？

あや 8割は普通です。1割の親がうるさいんです。今回は出番はみんな同じくらいにしたんですけど、それでも、一部の親グループから文句が出て……日ごろからそうなんです。そんな子にすり傷でも作って家に帰らせた日には大変です。

中井 ああ大変そうですね。

あや で、残りの1割の親が無関心です。

中井、手を止め、あやを見つめる。

あや さっきのすり傷の場合ですけど、無関心な親の場合、子供の擦りむいたひざに絆創膏張ってあげますよね。で、次の日も絆創膏はそのままなんです。ひざは汚れてて、お風呂にもきつと入ってないんです。もうジュクジュクになって膿んじやつてるんです。その子、足が痛いはずなんですけど、なんにも言わないんです。言わないどころか私たちから隠れようとするんです。

あや、中井の視線に気づき手をとめる。

あや その子、なんにも言わないんです。何考えてるのかわからない。
い。

中井 はい。

あや 変わった子なんです。

中井 そんな子いますよね。

あや 困るのは私たちの見えないところで乱暴なんですよ。他の保護者からもクレームがきました。

中井 はい。

あや もみじ祭りの取り組みがあったから、今月はふみえ先生に見てもらって。でも、やっぱりあの子は何を考えてるのかわからないって話になって……で、少しもめたつていうか……

中井 拍手なかったんですか？

あや え？

中井 拍手……もみじ祭り。

あや ああ。

中井 「どんぐりころころ」

あや ぱらぱらっとですかね。

中井 そうですか。

あや 手がふさがってるから。カメラ構えて。

中井 デジカメ構えて。

あや 自分の子供の写真をホームページにアップする人もいるそうですから。

中井、自分の手を見つめる。

突然、手をたたく。

中井 手は楽器ですね。

あや え？

中井 今、発見しました。

あや ……

中井、連続して手をたたく。

中井 休みなく手をたたくと拍手になりますよね。

あや 拍手を求めているわけじゃないんですよ。

中井 手って不思議な力がありますよね。

あや ただ子供たちががんばってるから。

中井、あやに拍手をする。

あや 中井さん？

中井 拍手されるとうれしいし、拍手する方もうれしいです。

あや うん。

中井 「がんばったね」とか「すばらしい」とか伝わるような気がします。

あや 中井さんは子供さんとよく遊んであげてるんですか？

中井 両手でそっとつつみこむんです。

あや え？

中井 手をです。その子の小さな手を。

あや 手？

きょうこが本をかかえて入って来る。

きょうこ オオクマさん、また問い合わせ。

あや え？

きょうこ オオクマさん。

あや またですか？

きょうこ 今度は園内の敷地面積はいくらですか？保育士の正職員とアルバイトの比率はどれくらいですか？って。

あや 一体誰ですか？

きょうこ また素性を聞くの忘れちゃった。向こうが根掘り葉掘り聞くから口を挟む間がなくて。もみじ幼稚園を一度見学させてほ

しいって。

あや 承諾したんですか？

きょうこ しないけど。

きょうこ、中井に気づく。

きょうこ 中井さん、三原台方面、送迎バスが時間通りに来ないって保護者から苦情がきてましたよ。

中井 三原台ですか。

きょうこ 2、3分くらい何よ。(あやに) ねえ。

あや ……

中井 すいませんでした。

きょうこ 中井さんは今日は何時ごろまでいるんですか？

中井 えっと決めてないですけど。

きょうこ じゃあ、あとでバルサン買ってきてくれますか？

中井 バルサンですか？

きょうこ (あやに) 覆面記者ね。

あや え？

きょうこ オオクマさん。レストラン紹介の記事によくあるでしょ。取材許可を取らず知らない間に店に来て批評して雑誌に載せる覆面記事。星印3つとか。

あや ありますね。

きょうこ 覆面記者が幼稚園の査定にやって来るのよ。保育雑誌に覆面記事を載せるつもりなんだわ。今月の一押し幼稚園のコーナー。星ひとつなんてつけられたら死活問題ね。

あや そんな記事見たことありませんよ。

きょうこ、いすに座る。

きょうこ ふみえちゃん、今年いっぱいかも。

あや え？

きょうこ 彼氏いるでしょ。商社マン。

あや いますね。

きょうこ もうつきあって2年でしょ。

あや 知りませんが。

きょうこ そうらしいのよ。2年って長い？短い？

あや 長いでしょう。

きょうこ 昨日飲みに行ったの。地酒の美味しいお店。ふみえちゃん思いつめてて。

あや そうなんですか。

きょうこ (思いつめたポーズをとり) こうやって、肩肘ついて、ため息。

あや 何を思いつめてたんですか？

きょうこ そんなこと聞けないわよ。ただ…：思いつめたら結婚よ。

あや 結婚？

きょうこ 辞めるつもりね。

あや 本人がそう言ったんですか？

きょうこ 結婚したら辞めるって保母の常識じゃない。相手エリート商社マンだし。

あや よく知ってますね。

きょうこ きつい汚い婚期遅れる3K職場より、安定した結婚生活でしょう。

あや そうですかね。

きょうこ 思いつめたら結婚。さばさばと離婚。私もそうだった。

きょうこ、色画用紙の葉っぱをひらひらと落とす。

きょうこ 結婚なんて幻想よ。

きょうこ、壁面のどじょうを指して、

きょうこ うなぎ？

あや どじょうです。

きょうこ こうしちやいられない。

きょうこ、立ち上がる。

きょうこ あや先生、保育士の募集っていつもどうしてました？

あや ハローワークに置いてもらうんです。

きょうこ えっだって専門職でしょ？

あや もちろん幼稚園免許所有者求むって書きますけど。

きょうこ そりゃそうよね。

あや はい。

きょうこ、教室から出て行く。

あやと中井、目を合わせる。

あや 経営者だから。

中井 三原台方面、時間通り運行してるつもりなんですけどねえ。

あや 親はなにかと文句をつけたがるから。

あや、片付けの続きを始める。

中井 フレーベルですか。

中井、きょうこが残していった本を手にとる。

あや 正門の横に古い小さな石碑あるでしょ。

中井 ああありますね。

あや その人の言葉が彫ってある。

中井 見落としてました。

あや 普通見落とします。

中井 不覚です。

あや 一応、この幼稚園はその人の思想をよりどころにしてる。

中井 偉い人なんですね。

あや 世界で初めて幼稚園を作った人。

中井 そうなんですか

あや 私はその人、あんまり好きじゃないんですけど。

あやは壁面飾りを掲示板に貼っていく。

中井、本をめくり、声を出して読んでみる。

中井 われわれは死んでいる。われわれを取り巻いているものはわれわれにとつて死んでいる。われわれはありとあらゆる知識を持っているにもかかわらず空虚である。われわれの子供たちにとって空虚である。われわれが語るほとんどのものがうつろであり、かつ空虚であり、内容がなくかつ生命がない……すごいこと言ってますね。

蚊取り線香を持ったきょうこが窓から顔を出す。

きょうこ 蚊取線香で死なないよね。

あや 死なないと思いますけど。

きょうこ そうよね。

きょうこ、去る。

中井 われわれが語る言葉が自然及び生命の直感？にもとづいてい
る。えーなんて読むのかな……マレ？稀な数少ない場合にだけ、
われわれは彼らの生命を享受する。難しいですね……したがって、

さあ、われわれの子供たちのもとへ赴こう。われわれは彼らをつうじて、われわれの言葉に内容を、われわれを取り巻いている事物に生命を与えよう。われわれは彼らをつうじて、われわれに必要であるものを得るであろう。

あや 楽観的なよ。

中井 うーん、演説してますね。

あや 逃げるのかしら。

中井 え？

あや ふみえちゃん。

やや間。

中井 ふみえ先生はいい先生です。三原台方面の時、一緒じゃないですか。いつも明るい声で「おはよー」って元気いっぱい。

「麦藁帽子もってる人、手を上げてー」「はーい」って。私も思わず手を上げちゃいますから。

あや 結婚したらやめるってホントに常識ですから。

中井 辞めないように説得します。

あや、壁面飾りを貼り終える。池にどんぐりとどじょう。そして紅葉。かわいい秋の風景が完成する。あやと中井、しばらく秋の景色を眺めている。

中井 辞めないと思いますよ……ふみえ先生。

あや こうやって季節をデフォルメしないと気づけないのかも。

あや、去る。

中井、フレーベルの本をじっと見つめる。

その本を持って立ち上がる。

中井 (大仰にフリつけながら) 父親よ。両親よ。われわれに欠けているものを、さあ、われわれの子供たちから手に入れよう。彼等の生命のひそかな諸忠告、彼等の心の静かな諸要求に耳を傾けよう。そうすれば、われわれに平和と喜びをもたらしてくれるであろう。(いすに座り) そうすればわれわれは賢明になりはじめるであろう……ですか。

通路の窓から知らぬ間に男がのぞいている。

中井 ……みんながんばってるんですけどねえ。

中井、その男に気づく。

男 つっこまれないわけ？

中井 え？

男 それが日常なの？

中井 オオクマさん？

男 ボクがオオクマならあなたはコグマ？

中井 へ？

男 その帽子その帽子。

中井 あっ。

中井はずっとくまの帽子をかぶっていたのだ。あわてて帽子をとる。

男、教室に入ってくる。壁面の飾りを見て。

男 なるほどなるほどこの辺は予想通り。

中井 靴。

男 ああ。

男、外に出て靴を脱ぐ。

中井 あのと。

男 その帽子がずっとつっこまれない日常があるわけでしょう。ここには。

中井 これは仕事着みたいなのですから。

男 金網で張り巡らされた敷地内に別の価値観が存在した。

中井 金網は去年からです。

男 有刺鉄線いかついよね。

中井 いろいろ起こりますから。

男 そして、あの切り株バス。

中井 え？

男 あれ、あのデザイン切り株のつもりなんですよ？わかりにくいよねえ、見えないよねえ切り株に。送迎バス？

中井 覆面記者？

男 覆面？

中井 オオクマさん？

男 なんで切り株なの？

中井 子供の描いた絵を元にしたんで。

男 なるほどなるほど、さすが幼児教育。

中井 オオクマさん？

男 斉藤です。

中井 斉藤さん？

斉藤 斉藤です。

中井 誰ですか？

斉藤 誰って何？

中井 素性。

斉藤 あなたは？

中井 送迎バスの運転手です。

斉藤 切り株の主。

中井 あなたは？
斉藤 しがない近所の男だよ。
中井 なぜここに。
斉藤 ジョンを探しに。
中井 ジョン？
斉藤 Where did you go, John?
中井 ジョンって誰ですか？
斉藤 Dog.
中井 ドッグ？
斉藤 犬。
中井 犬？
斉藤 John is my dog.
中井 やばいですね。
斉藤 やばい？
中井 子供たちが来てなくて良かったですよ。
斉藤 門開いてたからね。
中井 え？
斉藤 もしかして迷い込んだのかなあって。
中井 それは何ですか？黒い犬ですか？猟犬ですか？
斉藤 何で？
中井 ジョンだからきつとイギリス産の猟犬でしょ。
斉藤 柴犬だよ。
中井 柴犬？
斉藤 しがないただの柴犬：：日本産：：豆柴。
中井 柴犬にジョンって名前つけないでください。
斉藤 なんで？最近、子供にもつけるじゃない。この幼稚園にもいるでしょ。ミティアとかサリーとかレイラとか。

と、その時、手にはスプレー式殺虫剤、うさぎの耳のついたピンクのほおかむり、マスク、エプロンの完全武装のき

ようこが入ってくる。斉藤を発見する。

きょうこ オオクマさん？

斉藤 また。

きょうこ オオクマさんなの？

斉藤 なんでボクがオオクマ？

きょうこ 困ります。ちゃんと取材許可取ってもらわないと。

斉藤 それ日常？

きょうこ え？

斉藤、手でうさぎの耳を作る。

急に暗くなる。

2

1時間後。

教室には、きょうこと斉藤がいる。

きょうこ 子供って嘔むでしょ。痛いよ。

斉藤 歯型。

きょうこ 唾液べっとりだし。だから嫌い。

斉藤 ジョンと同じだ。

きょうこ ジョン？

斉藤 嘔むのは親愛の情。かまってほしいんだ。

園庭から、ふみえの声が聞こえる。

ふみえ 駄目ですよ、そこ。そこまでやっちゃうと。え？そこ？そ

こ、ぞうぐみの花壇だからさとみ先生に聞かないと。え？そっち？知りませんよ。あっそれ草じゃないですよ。ロケットサラダ。ロ、ケ、ツ、ト、サ、ラ、ダ。

ふみえ、通路を通り下手に去る。

斉藤、ふみえを見ている。

きょうこ もともとおばあちゃん子だったから。私、働いてたし、ずっと旦那のおばあちゃんが見てくれてたし。

斉藤 (きょうこに視線を戻し) ああよくあるパターン。

きょうこ そのまま、おばあちゃんに手を引っ張られて。私もさばさば。向こうもさばさばしてたんじゃないかしら。

斉藤 子供は環境に適応するからね。

きょうこ 結果的には良かったの。

斉藤 結果的？

きょうこ 子供にとっては離婚前も離婚後もほとんど生活は変わらないから。

斉藤 そうね。

きょうこ 私は仕事で夜遅かったし。

斉藤 女企業戦士。

きょうこ ずっと子供のめんどろ見てたのは旦那ばあ。

斉藤 良かったね。結果的に。

きょうこ え？

斉藤 生活変わらないんですよ。

きょうこ だから噛むのよ。

斉藤 子供でしょ？

きょうこ 私を噛むの。

斉藤 うん。

きょうこ うちの子の話。

斉藤 ……4歳って言ってたよね。

きょうこ 口があるのにしゃべらないの。

斉藤 え？

きょうこ くまのぬいぐるみにしか話さないの。

斉藤 ほら、女の子だから。

きょうこ 樹理亜。樹木の樹に、理由の理、亜細亜の亜。

斉藤 いい名前だ。国際的。

きょうこ いつも黙り込んでた。不肖の子ほどかわいって、旦那

ばばあの口癖。

斉藤 孫は目に入れても痛くないから。

きょうこ 口はなんのために？噛むため？お話するため

でしよ。

斉藤 そうね。

きょうこ みんな私のせい。

斉藤 一ヶ所に不満を集めるんだよね。

きょうこ で、さばさばと離婚して。

斉藤 うん。

きょうこ 気がついたら幼稚園の園長さん。

斉藤 へえー。

きょうこ 母親が倒れなかったら、まだ前線で戦ってたのに。

斉藤 志半ばで。

きょうこ そうそう。

斉藤 おもしろいねえ。

斉藤、きょうこをもてあましている。

突然、立ち上がり、園庭を見る。

斉藤 くわを振り上げ、ザクツザクツ。おもむろに青空を見上げる
バスの運転手。

きょうこ ホントさばさばした。

斉藤 満面の笑みだ。いい汗かいたなあ。首にまいたタオルで汗を

ひと拭い。そしてタオルは試供品だ。

きょうこ 中井さん？

斉藤 土まみれの手をみつめ、ニコニコと充実を感じる。直球。わかりやすい。

きょうこ 本当は今日休みなの。

斉藤 休日出勤？

きょうこ 賃金払わなきゃいけないから困るのよね。

斉藤 あれはアピールだね。誰かに見られてるってことを意識した笑顔のアピール。

きょうこ アピール？

斉藤 園庭を全部畑に変えてしまうような勢いだね。

きょうこ それでもいいんだけど。

斉藤 幼稚園経営ってどう？

きょうこ 経営？

斉藤 新人でしょ。

きょうこ 似たようなもんね。サービス業だし。

斉藤 大変でしょ。

きょうこ 保母は従業員、親も子供も客に見える。

斉藤 正しいね。

あやが通路を通り過ぎる。

きょうこはテーブル上の本を手にとる。

きょうこ 子供は鏡。

斉藤 Child is mirror？

きょうこ 子供は何もない、ただ、大人を映し出す。

斉藤 その本に載ってたりして。

きょうこ 子供は無機物。

斉藤 言わば……なんだろう。

きょうこ 何？

斉藤 言わば……人形？

きょうこ お人形さんはこの幼稚園にもいっぱいいる。

斉藤 茶髪？金髪？

きょうこ クラスに5人は茶髪もしくは金髪時々赤。真ん中に集めて立ててる子もいる。

斉藤 子供も気にいってるんでしょ。

きょうこ 子供は判断力ないから。

斉藤 ペットだよね。

きょうこ そうペット。

斉藤 ジョンと同じだ。ジョンも今金髪。

きょうこ 豆柴が？

斉藤 散歩中に必ず声をかけられる近所のアイドル。

きょうこ ジョンは探さなくていいの？

斉藤 いいのいいの。ボクとジョンはお互いに独立してる。一番近い他人だよ。

きょうこ 犬でしょ。

斉藤 肯定してるんだ。

きょうこ 何を？

斉藤 子供はペットでいいんじゃない。

きょうこ いいんだけど。

斉藤 飼い主とペットの関係って少なくともそのなかに愛情があるじゃない。

きょうこ 夜中に泣き止まないからあやしたの。あの子の小さいころ……残業で疲れてたから、あやしなうわの空。ふと見るとね。ジュリアの目が、子供の目からだんだん疲れきった大人の目に変わっていったの。そして低くかすれた大人の声でつぶやいたの。ママ、もういいよって。

斉藤 ほら。

きょうこ 何？

斉藤 だから鏡。

きょうこ え？

斉藤 鏡だから。

きょうこ え？

ふみえが入ってくる。

ふみえ きょうこ先生。

きょうこ、あわてて立ち上がる。

きょうこ えっ何？ふみえ先生。

ふみえ 電話です。

きょうこ 電話？

ふみえ 職員室に。

きょうこ 誰？

ふみえ オオクマさん。

きょうこ またオオクマさん？

ふみえ 園長出してほしいって。

きょうこ 用は何？

ふみえ わかりませんが。

きょうこ あっそう。

きょうこ、走り去る。

ふみえ ジョンはいいんですか？

斉藤 いいのいいの。

ふみえ、去ろうとする。

斉藤 ねえ。

ふみえ 何ですか？

斉藤 合コンしない？

ふみえ え？

斉藤 パーティーしない？

ふみえ ……パーティーって何ですか。

斉藤 ボクの大学じゃ流行ってんだけどね。パーティー。

ふみえ 学生さん？

斉藤 院院。

ふみえ なんの研究してるんですか？

斉藤 教育学専攻。昨今は虐待とか育児放棄とか流行ってて子供殺しちゃうでしょ。現代社会の病理とかなんとか言ってるけど昔からあんだよね。

ふみえ は？

斉藤 母親がわが子を殺すのは、母親がひどい人間だからではなくわが子を育てられないという絶望からだ、ペスタロッチは「立法と嬰兒殺し」という著書の中で言ってる。

ふみえ ふーん。

斉藤 相手の男性への絶望や家族への絶望が子殺しに向かわせる。

だから母親救済の法律を作ろう。

ふみえ はーん。

斉藤 貧乏とかね。

ふみえ ふーん。

斉藤 試験に出るよ、ペスタロッチ。

ふみえ そうですか。ありがとうございます。

斉藤 ね？合コンしない？人数そろえてよ。

ふみえ しません。

斉藤 保母ってポイント高いんだよね。なんでか知らないけど。

ふみえ 保母じゃありません。

斉藤 保母でしょ。

ふみえ 保母は保育園です。ここは幼稚園だから幼稚園教諭です。

管轄も保育園は厚生労働省、幼稚園は文部科学省。

斉藤 (さえぎって) でもあの園長、保母って言ったよ。

ふみえ あの人は新人ですから、なんにもわからないんです。

斉藤 でもあなたはバイトでしょ。

あやが通路を通りかかる。

あや (大声で叫ぶ) 中井さん。そこ。ロケットサラダ。

斉藤 今の人は絶望を感じちゃう前に、絶望が体に組み込まれてんだよね。

あや (より大声で) ロケットサラダ。

あや、去ろうとして、立ち止まり、

あや だからそれヨトウムシ。ヨ、ト、ウ、ム、シ。

あや、保育室内を一瞥し、去る。

斉藤 ここいろんな事例転がってるよね。

ふみえ え？

斉藤 去年、アル中の母親いたでしょ。お迎えのとき、酒の臭いをブンブンさせて、おまけにくちやくちやガム噛んで問題になってた。さつきの先生が担任でしょ？

ふみえ ……

斉藤 あの先生、母親をめちやくちや怒ったそうじゃない。

ふみえ 当たり前でしょ。

斉藤 結局、その子、幼稚園辞めちゃって、あの先生、他の親からも総スカン「やりすぎだー」って。

ふみえ ……

斉藤 アル中はお酒を飲まないと震えが止まらず動けない。その酒

の臭いを消すために必死でガムをくちやくちや。

ふみえ ……

斉藤 必死に子供を連れてきてんでしょ。せつないじゃない。その母親。

ふみえ ……

斉藤 距離をとらなきゃ。そういうの余裕ないと見えてこないですよ。

ふみえ なんで知ってるんですか？

斉藤 遊戯室のトランポリンの裏を見てごらん。

ふみえ トランポリン？

斉藤 いろんなところに盗聴器しかけてるから。

ふみえ ……

斉藤 嘘だよ。第3公園にて井戸端会議を盗聴。

ふみえ、去ろうとする。

斉藤 ね、合コンしない？

ふみえ しません。

中井、興奮して入ってくる。

中井 ロケットサラダってあるんですね。野菜ですよ。ねえ、ふみえ先生。珍しいですよ。

ふみえ ビタミンCが豊富なんです。

中井 ちよっぴりゴマの味がしましたね。

ふみえ 食べたんですか？

中井 いえ食べてません。

ふみえ でも今、味って。

中井 いや…風味です。鼻を近づけて匂っただけです。

ふみえ ……

中井 いや、あの、つい好奇心で。
ふみえ どうしてそんなにつまんない嘘をつくんですか？
中井 すいません。

あやが入ってくる。保育雑誌を抱えている。

あや (明るい声で) ふみえちゃん、ちよつと時間ある？
ふみえ (気をとりなおして) ありますけど。

あや 話、しところと思って。

中井 ああそれはいいことですね。

ふみえ 何ですか？

あや 運動会に向けてよ。

中井 え？運動会？

あや、斉藤を見る。

あや ジョンはいいんですか？

斉藤 ジョンねえ。いいよ別に。

あや 豆柴ってかわいいですよね。

斉藤 まあね。

あや もし園庭に迷い込んでたら連絡さしあげますけど。

斉藤 どうもどうもご丁寧に。

斉藤は帰らない。

あや、斉藤を気にせず、いすに座り語りだす。

あや 倉庫にね。竹が眠ってたの。

ふみえ 竹？

あや 去年、卒園した親が寄付してくれたじゃない。

ふみえ ああ、はいはい。

あや いい？あれを園庭の真ん中にね、垂直に立てるの。
ふみえ 垂直ですね。

あや 竹のてっぺんに、そうね、なんでもいいんだけど、例えばバナナを吊るすのね。

ふみえ てっぺんにバナナですね、はい。

ふみえ、いすに座り、手帳を広げメモする。

あや ヨーイドンで、子供たちが竹まで走るのね。で、一人ずつ上るの。裸足で竹を上って…

ふみえ バナナを取ると。

あや そう、バナナを取って自分の陣地に帰ってきて、かわいく食べるまねをするのね。

ふみえ お猿さんのお面をつけるわけですね。

あや いいわねそれ。BGMはお猿の定番の「アイアイ」

ふみえ 陣地は南の島ってことにしましょう。

あや ナイスアイデア。

ふみえ 黄色いゴミ袋って残ってましたよね。バナナはゴミ袋で作りましたよ。

あや 竹に上るとここで一人一人目立つしね。みんなが主役になる。ふみえ 竹はどうやって立てるんです？

あや 竹の先にロープをつけるの。倉庫にいい具合のがあったから。

ふみえ はいはい。(と、メモる)

あや 三本のロープで支えるの。

ふみえ 三本？

あや、立ち上がり、身振りを交えて説明する。

あや ここに竹があるとするでしょ。

ふみえ 垂直にですね。

あや 一人がしゃがんでここからロープで引っ張るの。(実演しながら) こうやって。

ふみえ はい。

あや ふみえちゃん、ちょっとこっちきて。

ふみえ あっはい。

ふみえ、あやがやってみせたようにロープを引っ張るマネをする。

ふみえ こうですね。

あや で、引っ張る。

ふみえ 引っ張る。

あや で、もう一人はこっちから。

中井 あっ私がしましょう。

あや お願いします。

中井、あやに指示された場所に座る。

あや 引っ張る。

中井、ロープを引っ張るマネをする。

あや で、三人目はこっちから。

あや、斉藤と目が合う。斉藤は目をそらす。

あや、しゃがんでロープを引っ張る構えをする。

あや 三人同時に、引っ張る。

三人、息を合わせる。

あや・ふみえ・中井　せーの、うんしよ。

と、三人、力を込めてロープを三方から引っ張るマネをする。

三人の目の前には見えない竹が垂直に屹立しているようにみえる。

中井　なるほど。

あや　はい。

ふみえ　たちますね。

あや　ええ。

やや間。

三人、ばらばらに立ち上がる。

あや　朝のお集まりは園庭に集合でいい？

ふみえ　え？

あや　さっそく明日からのぼり棒の取り組みね

ふみえ　明日からするんですか？

あや　もう始めないと間に合わないから。

ふみえ　そりゃそうですけど。

中井　のぼり棒ってあの園庭のすみのを使うんですよね。

あや　そうです。

中井　古いですけど大丈夫ですかね。

あや　大丈夫よ。

中井　何人ぐらいの子供がのぼれますかね。

ふみえ　子供たちがのぼり棒で遊んでいるところを見たことありませんよ。

あや　変わるから。

ふみえ 変わる？

あや 目標を持たせるの。子供をほっておいても何も出てこないと思うのよ。目標を設定してあげないと、目の前にハードルを置いてあげないと飛ばないのよ。一生懸命ハードルをよじ登ってやっ
と充実感を得るのよ。それで子供たちはやっ
と階段を一步上がる
ことができるの。やっ
と成長するの。

中井 ペンキを塗り替えたらまた違うと思うんですよ。子供が寄つてくるっ
ていうか。

あや 毎日するから生活に立脚してるというところははずしてないし。

中井 お猿のバナナ争奪競争というのはどうです？

ふみえはあやを見つめている。

斉藤 あはははは。

斉藤、突然笑い出す。

ふみえ 何ですか？

斉藤 大変だなあ。

ふみえ 何がですか？

中井 (あやに) やっぱり出し物の題名としては変ですか？

斉藤 行事、なくせばいいのに。

ふみえ え？

斉藤 矛盾してるよね。何もないなら何もしなくていいじゃん。

あや そんなわけにはいきません。

斉藤 なんで？

ふみえ 勝手に話に入らないでください。

斉藤 (あやに) 行事、なくせばいいのに。

あや なくせません。

斉藤 目標を持ちたいのは大人でしょ。
あや え？

斉藤 そんなの子供がたまらんよね。

きょうこ、入ってくる。

きょうこ 斉藤君、お昼まだでしょ。

斉藤 ええ、まだ。

きょうこ おごるわ。一緒に行かない？

斉藤 えっいいの？

きょうこ 斉藤君の話おもしろいから。

斉藤 ラッキー。

きょうこ 駅前まで付き合って。

斉藤 いいよ。

きょうこ バルサン買わなきゃ。

斉藤 喜んで喜んで。

きょうこ 中井さん、スコップ出しっぱなし。

中井 あっはい、そうですね、はい、片付けます。

あや きょうこ先生。

きょうこ 何？

あや オオクマさんはどうなったんですか？

きょうこ オオクマさん？

あや また電話あったんですよね。

きょうこ もういいのよ。いたづら。

あや いたづら？

きょうこ だってわけわかんないことばかり聞いてくるのよ。

あや 何を聞かれたんですか？

きょうこ 給食とお弁当の比率だとか給食のメニューだとか卒園児
に有名人はいるのかとか正門は何時から何時まで開いているのか
とか。

あや 何ですかそれ。

きょうこ 変な人が多いから。

中井 玄関、施錠しときましようか。

きょうこ 大丈夫でしょう。子供来てないし。

中井 そうですか。

きょうこ 私たちが出た後、一応、門、閉めといってくれますか？

中井 了解しました。

きょうこ 斉藤君。

斉藤 はい。

きょうこ 出て行く。斉藤、本をテーブルの上に置き去る。

中井、出て行った二人をしばらく見ている。

ふみえ、あやの前に立つ。

ふみえ のぼり棒……もう一度考えませんか？

あや ……

ふみえ 何かあると思うんですよ。今の子供たちに合ったもの、今の子供たちがしたいこと。

あや タイセイ君は私がみるから。

ふみえ え？

あや 運動会の取り組み。

ふみえ あや先生は全体指導があるじゃないですか？

あや なんとか保育体制を考えるわ。

ふみえ そういうことじゃないんですよ。

やや間。

あや 懇談会で他の保護者にわかってもらいます。彼は乱暴じゃありません。本当は優しい子です。親の愛情に飢えてるだけです。それで、納得してもらいましょう。

ふみえ 納得するわけじゃないですか。

あや タイセイ君には無理をさせたくないの。

ふみえ はい。

あや 無理矢理集団に入れても駄目だから。自分のペースで最終的に集団に参加出来ればいいと思うの。

ふみえ 集団参加が先決なんですか。

あや 当たり前でしょ。社会性を身につけさせなきゃ。

ふみえ 折り合いをつけさせるってことですよね。

あや タイセイ君、腐ったものを集めてるよね。

ふみえ え？

あや 腐った花をお道具箱にいっぱい溜め込んでるでしょ。あれもやめさせないと。

ふみえ そうですけど。

あや あれじゃみんなに受け入れられない。

ふみえ 色鮮やかに咲いた花を好きになれってどうやって教えるんですか。

あや きれいなものを好きになるって、人間にはもともと備わってるから。

ふみえ じゃあ時間の問題なんですかね。

あや そう。

ふみえ いつもと言ってること違うじゃないですか。

あや 家庭の問題。折を見て家庭訪問に行く。お母さんに変わってもらうの。

ふみえ またですか。

あや じっくり話をするの。

ふみえ 大人はなかなか変わりませんよ。

あや 母子関係が大切なの。

ふみえ あや先生、余裕持ちましょうよ。

あや 余裕なんて持てないわよ。

ふみえ、あやを見つめる。

ふみえ タイセイ君は優しい子です。

あや 知ってる。

ふみえ もみじ祭りの日、お母さんが迎えに来るって知ってたんです。園庭の隅にしゃがみこんで、小さな手で小さな花を必死で摘んでるんです。手にいっぱい摘むときれいに水で洗うんです。タイセイ君が園庭にしゃがみこんでいるのはきまってお母さんが迎えに来る時なんです。お母さんに花を渡したいんです。でも、花を渡せないんです。だからお道具箱に溜め込んで腐らせるんです。知ってました？

あや ……

ふみえ タイセイ君はお母さんのことが大好きなんです。

あや ……

ふみえ 私も昨日気づいたんですけど。私の…：思い込みかもしれないんですけど。

あや そう。

ふみえ もう一度…：タイセイ君につかせてもらえませんか？

あや ……

ふみえ、あやをじっと見つめる。あやは答えない。

ふみえ、園庭に視線を向ける。

ふみえ バナナの木に葉っぱありますよね。

あや え？

ふみえ 南国風の…：バナナの葉っぱって大きいですよ。

あや うん。

ふみえ 今日中に作っておきます。

あや 急がなくていいけど。

ふみえ バナナの木、明日あったほうがいいですよ。

ふみえ、出て行く。

あや 中井さん。

中井 はい。

やや間。

あや なんで畑を作ってるんです？

中井 趣味ですね。

あや 野菜のこと知らないじゃないですか。

中井 バレました？

あや バレますよ。

中井 土いじりがしたいのかな。

あや 土いじり？

中井 恥ずかしいですね。なんか子供みたいですね。

あや そんなことないですよ。

中井 手はね、やっぱり不思議に思うんですよ。

あや 不思議？

中井 まず、道具でしょ。

あや はい。

中井 (手を口にそえて) 拡声器とか。

あや はい。

中井 痛いところをさするとマシになるじゃないですか。

あや なりますね。

中井 握手とか。(と、握手をするしぐさ) あったかいじゃないですか。

あや はい。

中井 手の感覚は鈍るらしいんです。

あや え？

中井 だから土いじりをして手を鍛えるんです。
あや 手を鍛える？

あやは自分の手を握ったり開いたりする。

中井 てのひらから、何かが出たり入ったりしてる気がするんです。
あや 何かって何でしょう。

中井 何でしょう。

あや 例えば。

中井 はい。

あや 心？

中井 あっそうですね。

あや 心のはいり？

中井 あっそうですね。あや先生うまいこと言いますね。

中井、自分の手を見つめる。

中井 いいですねえ。てのひらは心の出入り口。

あや、中井を見つめる。

あや 本気でそんなこと思ってるんですか？

中井、驚いてあやを見る。

急に暗くなる。

3

2時間後。

教室には、きょうことふみえとあやと斉藤がいる。
斉藤はフレールベルの本を読んでいる。

テーブルの上を買ってきたばかりのバルサンが置かれてい
る。

きょうこ 霧タイプもあつたんだけどね。

ふみえ 霧？

きょうこ 霧は消極的でしょ。

ふみえ 消極的？

きょうこ やるからには積極的にかないと。

ふみえ 煙は積極的ですか。

きょうこ そうよ、煙で燻し出すわけだから。

ふみえ 大丈夫ですかね。

きょうこ 何？

ふみえ 絵本は子供たちが触ります。

きょうこ 絵本は…そうね、新聞紙で包みましょう。古新聞は職員
室にたくさんありますから。

全員、じつとバルサンを見つめている。

あや きょうこ先生。

きょうこ はい？

あや あらたまつて何です？

きょうこ、立ち上がる。

きょうこ エー皆様に、相談したいことがあるんですけど。

あや やっぱり。

きょうこ ここにいる斉藤君。

あや はい。

きょうこ 都立の教育学部の院生なの。
斉藤 専攻は教育史とフレーベルです。
きょうこ ほら、うちにぴったり。

きょうこ、拍手をする。

あや 何がですか？

きょうこ 明日から定期的に来てもらおうと思っています。

ふみえ え？

きょうこ 週に二回ほど。

ふみえ 何しにくるんですか？

きょうこ ぜひこの幼稚園のことを論文のテーマにしたいって。

斉藤 ここは生の事例の宝庫だから。

ふみえ 何しにくるんですか？

斉藤 フレーベルの検証。

あや 検証？

斉藤 これ。(本を掲げる)

ふみえ 知ってますよ。

斉藤 人は生まれながらにして善って。

やや間。

斉藤 その検証。ホントかなーって単純な疑問。

きょうこ 明日から、りすぐみに入ってもらっていいかしら。

ふみえ りすぐみ？

きょうこ ちょうどいいでしょ。

ふみえ ちょうどよくありませんよ。

きょうこ だめかしら？

ふみえ だめですよ。

きょうこ どうして？

ふみえ 運動会の取り組みで忙しいですから。

きょうこ 閉じてちゃ駄目。これからの幼稚園は外に開いていかな

きゃならないの。

ふみえ それはわかりますけど。

きょうこ 宣伝にもなるし。

ふみえ なりませんよ。

きょうこ 困ってるんでしょ。

ふみえ え？

きょうこ 彼は専門なんだからアドバイスしてもらったら？

あや 私はいいですよ。猫の手も借りたいですから。

ふみえ あや先生。

斉藤 猫か。

きょうこ じゃあ決まりですね。

きょうこ、うれしそうに拍手をする。

あや よくわからないんだけど。

きょうこ 何？

あや どうしたいのかな。

斉藤 え？

あや うちの保育に批判的なんですよね。

斉藤 批判なんてしてないよ。

あや 例えばあなたならどうするの。

斉藤 え？

あや 保育プラン。

ふみえ あや先生。

あや 専門なんですすよね。

斉藤 そうねえ。

斉藤、周囲の人を見回す。

斉藤 子供はほおっておく。

あや 放任ですか？

斉藤 The conditions of existence. 出来るだけ自由な環境を整える。

あや それで？

斉藤 で、何もしない。Do nothing whatever.

あや 何もしない？

斉藤 子供を見るだけ。おもちゃを取り合う子供、園庭を走る子供、砂場で遊ぶ子供、ままごとをしている子供、泣いてる子供、笑ってる子供を……見る。子供が帰った後の幼稚園……出しっぱなしのじょうろや三輪車、積み木の散らばり具合、子供が何かの紙片に描いた落書きなどの痕跡もヒントになる。

ふみえ それで？

斉藤 それだけ。事例を収集、分析、それが客観をうむ。

きょうこ すごーい。(と、拍手)

ふみえ それで？

斉藤 子供に学べって。これが(本を掲げて)言ってるんでしょ。

だから学びましょう。学べばいいじゃない。

あや 子供たちは判断基準が出来てないんです。こちらが見通しを持って導いてやらないと。

斉藤 うんうん。

あや でないと子供は混乱します。

斉藤 どうでもいいけどね。

あや どうでもいい？

斉藤 ボクはね。検証したいだけなんだよ。昔は通用して今は駄目なのか。宗教と教育が混ざってるのか。はたまたフレールベルがボケてたのか。

きょうこ それマズイわ。イメージダウンね。

斉藤 人間が善を背負って生まれくるんだったら、いつ失うのか。

きょうこ それはいつでしょう。

斉藤 世間には変なやつはいっぱいいるからね。

きょうこ いるわよね。いるいる。

斉藤 誰が失わせるの？大人でしょ。

ふみえ 失わない子もいます。

斉藤 失う子もいるでしょ。だから何もしないの。

きょうこ はい。(と、大きくうなずく)

斉藤 環境は変わらないでしょ。

ふみえ 環境を整えるって言ったじゃないですか。

斉藤 整えるたって限度があるから。もう金網で囲むしかない。

一同、沈黙。きょうこ一人、大きくうなずいている。

斉藤 せっかく善で生まれてきてんのに、環境が悪じゃ悪循環だよ
ね。

あや どうしてそんなことを考えてるんですか？

斉藤 子供がもとも善であるなら、何もしないってことは積極的
な方策だとボクは思うんだよね。

あや どうしてそんなことを考えてるんですか？

斉藤 え？

あや 関係ないでしょ。

斉藤 余裕あるからかな。

あや 余裕？

斉藤 暇だしね。

きょうこ 斉藤君、新鮮。とっても新鮮。(と、大きく拍手をす
る)

中井が入ってくる。手にバルサンを持っている。

中井 煙もあったんですけど、一応、霧にしました。その方が本に

優しいと思ひまして。

きょうこ 中井さん。(と、テーブルの上のバルサンを示す)

中井 ありや。

きょうこ くん煙式。

中井 ありやりや煙ですか。

きょうこ いいわ、霧は職員室で使いましょう。

中井 すいません。

やや間。

斉藤 そろそろ……ボクは。

きょうこ 探しに行く？

斉藤 ジョンが呼んでるし。

きょうこ 聞こえるの？

斉藤 聞こえる聞こえる。

斉藤、ふみえを見る。

斉藤 以後よろしく。何でも相談してきてよ。いろんな相談を受け付けるから。

ふみえ ありがとうございます。

斉藤 うちの大学の事務に登録する？教育関係の求人多いみたいだから。

ふみえ ありがとうございます。

斉藤、去ろうとして、ふと園庭を見つめる。

斉藤 金網はどうだろう。

きょうこ 気になる？

斉藤 事情はわかるけどね。

きょうこ イメージ悪いかな。

斉藤 カラフルな有刺鉄線巻くとか。

きょうこ そうね。来年の予算で。

斉藤、去る。やや間。

ふみえ、斉藤の後を追うようにして出て行こうとする。

きょうこ ふみえちゃん

ふみえ え？

きょうこ どこに行くの？

ふみえ 玄関の門、施錠してきます。

きょうこ 施錠？

ふみえ 開けっ放しじゃまずいですから。

きょうこ オオクマさんね。

ふみえ はい。

きょうこ 携帯電話。

ふみえ 携帯？

きょうこ さっき近くに救急車通った時、受話器からも救急車の音が聞こえたの。

ふみえ はい。

きょうこ それって近くにいてることよねえ。

ふみえ そうですね。

きょうこ だから。

ふみえ わかりました。

ふみえが出て行く。

きょうこ ふみえちゃんもこれで安心ね。

あや え？

きょうこ 次の就職先が決まりそう。

あや ……

きょうこ やる気のない人はやめてもらわないと。

やや間。

あや きょうこ先生。

きょうこ 何でしょう。

あや 邪魔だったら言いますからね。

きょうこ え？

あや 学生さん。

きょうこ あの子新鮮じゃない。

あや そうですか？

きょうこ 新しい風に当たるのもいいかもしれないですよ。

あや 気楽ですね。

きょうこ 気楽にいきましょう。

あや 人間相手ですから。生ものですから。

きょうこ 違う視点が見つかるかも。

あや 子供のことをわかってないんですよ。

きょうこ そんなこと期待してませんよ。

あや え？

きょうこ 子供のことをわかって何？どこでわかるの？頭ではわ

かるの。わかっているつもりなの。頭では整理できるの。そうなっ

た原因も…結果もわかるの。でも違うでしょ。それわかって

言わないでしょう。

あや ……

きょうこ あや先生もわからないでしょ。ホントのところ。

あや 何がですか？

きょうこ 子供いらないでしょう。子供は大変だから。

あや 知ってますけど。

きょうこ 子供いない人がよく幼児教育できるなあって思うのよ。

あや え？

きょうこ きちんと反論できます？

あや ……

きょうこ いや、いいのよ。気にしないで。知らない方が仕事はやりやすいのかもしれないから。うちの幼稚園はあや先生だけが頼りなんだから。

あや ……

きょうこ 白い虫。

あや え？

きょうこ バルサンで燻し出してくる。

きょうこ、バルサンを抱え、去る。

中井 のぼり棒のさび、削りました。来週、ペンキ塗っておきます。

あや ありがとう。

中井、園庭を眺める。

中井 もう秋ですね。

あや 秋？

中井 どんぐり拾いの遠足っていつでした？

あや ……

あやも園庭を見つめる。

あや 子供いないのによくそんなことが言えますねって、同じこと
言われました。

中井 誰にです？

あや 去年…アルコール依存症の母親に…反論できませんで
した。

中井 ……はい。

あや 中井さん。

中井 はい？

あや 子供さん、どこかに連れていきました？

中井 どこかに……ですか？

あや 秋だから。

中井 そうですね。

あや 芋ほりとか、どんぐり拾いとか、最近、観光農園多いじゃないですか。

中井 いや、まだですけど。

あや いい天気だから。

中井 はい。

あや いい天気だからどこかに連れて行ってあげたら喜ぶのに。

あや、突然、頭を抱える。

やや間。

中井 半年に一度しか会えないんです。

あや 半年？

中井 子供たちに。

あや え？

中井 向こうから一方的に決められました。

あや 向こう？

あや、中井を見つめる。

中井 隠すつもりはなかったんですけど、タイミングが。

あや ……

中井 はい。

あや そうだったんですか。

中井 仕方ないです。見てなかったですから。余裕なかったですから。

あや ……

中井 悪いことは一挙にやってきました。仕事もなくなっちゃって。あや で、ここに。

中井 はい。

あや そう。

中井 前はね、動物園に連れていったんですよ。

あや 動物園？

中井 もう動物なんて目に入りませんよ。手をつないで。子供の手を握って。でも、あまり強く握っちゃうと、変ですからね。変に思われちゃいますからね。

あや うん。

中井 力の加減が難しい。

中井、照れ笑いをして、自分の手を見つめる。

あや こんなこと言うと嫌な気分になるかもしれないけど。

中井 何です？

あや 中井さんは失ったから見えるんですよ。

中井 は？

あや 失ったから余裕がある。

中井 失ったらだめですよ。

あや うん。

中井 失ったらとりかえしつかないですから。

あや そうね。

中井 ……私はなんにも見えないですよ。

あや え？

中井 もうわらをもすがる思いです。私は妻が何を考えていたのか、どんな気持ちでいたのか、いまだにわかんないんですから。

あや きょうこ先生は見えるのかな。

中井 どうでしょうか。

あや あの学生は？

中井 どうでしょう。

あや 私に失うものなんてないですから。

中井 あります。

あや 为什么呢。

中井 大事なものは失っちゃ駄目です。

あや それがわからないから。

中井 大事なものはわかります。

あや 大事なものの大事なものって気安く口にしないでください。

中井 あや先生、手です。

あや 手？

中井 大事なものはてのひらが知ってるんです。

昼下がりの日差しが室内に差し込んでいる。あやは自分の
てのひらを見つめる。

テーブルの上の本を手に取り、ページをめくる。

あや われわれは死んでいる。われわれを取り巻いているものはわ
れわれにとって死んでいる。われわれはありとあらゆる知識を持
っているにもかかわらず空虚である。われわれの子供たちにとっ
て空虚である。われわれが語るほとんどのものがうつろであり、
かつ空虚であり、内容がなくかつ生命がない。

ふみえが入ってくる。

あや どうしたの？

ふみえ 正門の前の道で。

あや 何？

ふみえ ……：…：…：…：犬が死んでました。
あや 犬？

斉藤が入ってくる。斉藤は無表情でゆっくり語りだす。

斉藤 ジョンはこの幼稚園に来てたんだね。うっかり道路に飛び出したんだ。偶然、通りがかった車にぶつかったんだよ。運が悪いよね。仕方ないよ。

あや ……：……

斉藤 世間は危険に満ちている。生命力がなかったんだ。

あや 犬に無関心だからでしょ。

斉藤 え？

あや 無関心だから。

ゆっくりと白い煙が通路にたちこめる。

中井、それに気づく。

中井 火事？

あや バルサンでしょ。

中井 バルサン？

あや きょうこ先生、虫を煙で燻し出すって言ってたから。

白い煙はやがて赤みを帯びる。

中井 やっぱり火でしょう。

ふみえ、斉藤、あわてて部屋を出て煙の方へ。

中井も行こうとするが、あやは動かない。

中井去る。

あや、再びフレールベルの本に視線を落とす。

あや われわれに欠けているものを、さあ、われわれの子供たちから手に入れよう。彼等の生命のひそかな諸忠告、彼等の心の静かな諸要求に耳を傾けよう。そうすれば、われわれに平和と喜びをもたらしてくれるであろう。そうすればわれわれは賢明になりはじめるであろう。賢明でありはじめるであろう。

あや、本を閉じる。

中井、戻ってくる。

中井 発見が早かったんで小火で済みそうです。

あや え？

中井 一応、消し止めました。

あや そうですか。

中井 放火です。今、きょうこ先生が警察に通報したところです。

あや、フレールベルの本を静かにテーブルに置く。

中井 あや先生。

あや はい。

中井 両手でそつとつみこむんです。

あや はい。

中井 手です。その子の小さな手を。

中井、再び放火現場へ。

あや、自分の手を見つめる。

そして、教室内を見回し、バケツを見つけ、放火現場に向かう。

誰もいない教室に西日が差してくる。
急に暗くなる。

4

次の日の朝。

教室にはまだ誰もいない。

あやが入ってくる。昨日のままの教室を少し片付け、園庭を見つめる。

きょうこが入ってくる。

きょうこ 来年度の入園希望者に響かないかしら。

あや (振り返り) え？

きょうこ 昨日も休園、今日も休園、もみじ幼稚園の売りはお休みが少ないってことなんですから。公立の週休2日制に対抗して土曜日を自由登園にしてるってことが売りなんですから。

あや 今日の臨時休園は仕方ないんじゃないですか。

きょうこ うん。

あや 昨日の今日ですし。

きょうこ まあそうだけど。

あや 犯人、見つかりそうですか？

きょうこ 駄目駄目。ダンボールの束を燃やされたぐらいじゃ、警察も本腰にならないわ。最近よくあるんだって、放火。一応、巡回は強化してくれるらしいけど。

あや そうですか。

きょうこ 他の園みたいに警備の人を雇わなきゃだめかしらね。

きょうこも園庭をながめる。

ふみえが、バナナの木 of 材料を抱えて入ってくる。

きょうこ 中井さん、また来てる。

あや はい。

きょうこ わざとかしら。今日もお休みって言ったのに。

あや 今日中に畑を耕してしまいたいって言ってましたよ。

きょうこ 畑はいいんだけど。

きょうこ、ふみえに気づく。

ふみえ やはり犯人はオオクマさんですか？

きょうこ わからないのよ。

ふみえ え？

あや 証拠がないから。

ふみえ そうですか。

きょうこ でもあれつきり問い合わせはないのよね。

ふみえ 気持ち悪いですね。

ふみえ、材料をテーブルの上に置く。

きょうこ 中井さんにしてもらおうかしら。

あや 何をです？

きょうこ 警備員。

ふみえ 中井さん？

きょうこ 安上がりだし。

ふみえ 資格いららないんですか？

きょうこ それがいらないのよ。他の園でもそう。

ふみえ そうなんですか？

きょうこ 門に立ってるだけでいいから。

ふみえ うーん。

きょうこ 何？

ふみえ いいんですか？中井さんで。

きょうこ いいって？

ふみえ 例えば刃物を持った人が乱入する可能性もあるわけですね。

きょうこ あー。

ふみえ はい。

きょうこ あーやっぱり駄目だわ。

あや 駄目？

きょうこ 中井さん、気が弱そうだもんね。

あや 中井さんは強いですよ。

きょうこ そう？

あや きつと子供たちを守ってくれますよ。

少しの間。

きょうこ かけあつてこようかしら。

ふみえ え？

きょうこ 中井さんに。

ふみえ 決断が早いですね。

きょうこ 今日の扱いのこともあるし。

あや 扱い？

きょうこ 今日はボランテニアということにしてもらいましょう。

ふみえ ボランテニア？

きょうこ ふみえちゃん。

ふみえ はい。

きょうこ 斉藤君もこき使っているのよ。

ふみえ やっぱり来るんですか？

きょうこ どうして？

ふみえ いえ。

きょうこ ここで勉強させてあげるんだから、元は取らなきゃ。

(あやに)ね。

あや はい。

きょうこ 皆さん、今日は午前中で上がりましょう。
ふみえ はい。

あや はい。

きょうこ、去る。

ふみえ 経営者ですね。

あや (笑って) そうね。

ふみえ、持ってきた材料や保育雑誌を広げる。

ふみえ バナナの葉っぱってどれぐらいの大きさですかね。

あや 両手いっぱいかな。

ふみえ 両手いっぱい？

あや ダイナミックに。迫力あるほうが盛り上がるもの。

ふみえ そうですね。

ふみえ、作業を始める。

あや、しばらくふみえを見つめている。

あや ふみえちゃん。

ふみえ はい？

あや ふみえ先生。

ふみえ、手を止める。

ふみえ 何ですか？

あや 明日から、タイセイ君……見てくれますか？

ふみえ え？

あや お願いします。

あや、ふみえに深々と頭を下げる。

ふみえはあやをじっと見つめる。

あや 私も見ます。ふみえ先生とタイセイ君を見ます。タイセイ君の気持ちを考えます。

ふみえ ……わかりました。

あや 明日は1日中、自由に遊ばせましょう。

ふみえ 運動会の取り組みはいいんですか？

あや 思いつきり遊びましょう。そういうの久しぶりでしょ。

ふみえ はい。

あや そのあとはバリバリとやります。

ふみえ はい。

あや 相変わらず余裕はないけどね。

ふみえ はい。

あや タイセイ君と手をつなぎます。壊れないように……そつと……手を握り締めます。

きょうこが通路を通りかかる。

きょうこ 中井さん。そこー、このみ先生、子供たちと一緒に、なにか植えてましたよー。テキストに耕したら駄目ですよ。子供たち泣きますよ。子供たちがっかりしますよ。

きょうこ、中井をはらはらしながら見つめている。

ふみえ 子供たちに畑仕事、手伝わせましようか？

あや え？

ふみえ 自分たちでお世話して収穫して食べるんです。

あや それ、いいわね。

ふみえ はい。

ふみえ、作業に戻る。

あや、自分の手を見つめる。突然、手をたたく。

ふみえ、驚いてあやを見つめる。

あや、再度、手をたたく。自分の手のひらの感触を確かめるように何度も何度も。その音はだんだん拍手になっていく。

ふみえ ……あや先生？

あや、拍手をやめない。拍手の音は力強く力強く。

その音はあや自身を鼓舞しているようにも、あやの決意にも聞こえる。

危険に満ちたこの世界に、静かに立ち向かう音である。

ふみえは、あやの行為をじっと見つめている。そして、微笑む。

拍手の音は永遠に続くようである。

終わり

引用文献

・「フレーベル教育学の研究」 岩崎次男 玉川大学出版部

*この戯曲を上演ご希望の場合は、必ず、空の驛舎までご連絡ください。

〒558-0041

大阪市住吉区南住吉2-6-27-301 中村方

携帯電話 090-4766-8751